

香川高専学生の英語苦手改善・英語力向上への試み --多読を考える--

水野 知津子*

Consideration of extensive reading as a tool in motivating and promoting students' English learning at National Institute of Technology, Kagawa College, Takuma Campus

Chizuko MIZUNO

Abstract

Various attempts have been made to develop students' English ability at the National Institute of Technology, Kagawa College, Takuma campus over the last decade. There have been several approaches implemented to improve students' English comprehension, including Computer Assisted Language Learning, Extensive Reading, Collaborative Learning and so on. There appeared to be some improvements in students' English ability when we looked at their GTEC test scores. Extensive reading seems to play a bigger role in developing students' ability. There must be more things done to motivate and promote students' English learning. This suggests a need for more study of extensive reading and integration of these approaches, and a longer longitudinal evaluation.

Keywords: Extensive Reading, Motivation, Teachers' Roles, Autonomous English Learning

1. 緒言

グローバル化した国際社会で英語力は不可欠であり、世界中の人々と自由かつ対等にコミュニケーションできる能力が求められている。英語運用能力は技術者にとって必須であり、高等専門学校においても、英語教育の質の向上が一層求められている。

香川高専詫間キャンパス（以下詫間キャンパス）での現状をみると、英語嫌いや英語に対して苦手意識を持っている学生が多い。数学や専門科目が難しく、余裕がないのかもしれないが、英語を勉強している学生は少ないようである（Mori & Johnston, 2013、Mizuno, 2014）。

このような状況を改善するために、これまで多くの試みが英語授業や課外授業で行われてきた。本稿ではこれまでの活動を振り返りながら、英語苦手意識を改

善させ、英語力向上に効果的と考えられる多読に焦点を当て、より良い英語教育実践に向けて考えていきたい。

2. 高専の現状

2.1 学校別英語力

高専の英語力は高専によって異なるが、2014年のTOEIC 学校別平均スコアを見てみると、大学院、大学より低く、さらに高校よりも低くなっている。大学院が524点（リスニング282点＋リーディング242点）、大学は445点（リスニング249点＋リーディング196点）である。高校が410点（リスニング241点＋リーディング169点）に対して高専は349点（リスニング208点＋リーディング141点）になっている（Ugui-sukyoku, 2014）。

* 香川高等専門学校詫間キャンパス 一般教育科

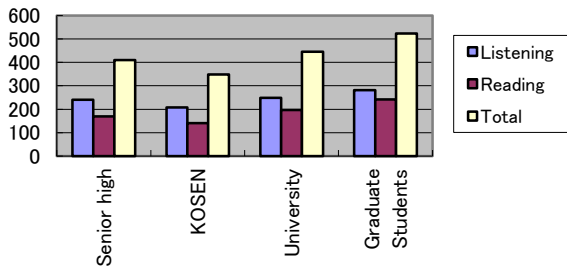


表 1. 学校別 TOEIC 平均スコア

5.2 香川高専託間キャンパスの英語嫌い意識

高専の学生は英語嫌いが多いと聞き、2014 年 4 月に託間キャンパスでの筆者担当クラスで実際に調査してみた。回答数は 284 名（1 年、3 年、5 年）である。結果は、英語に対して肯定的な回答が 31%（とても好き 26%+好き 5%）、中立的な回答が 24%、否定的な回答が 45%（好きではない 27%+嫌いである 18%）であった。

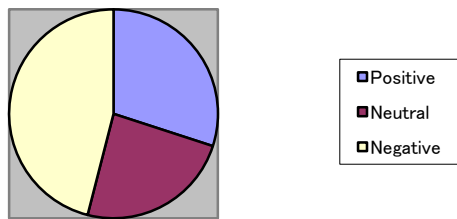


表 2. 「英語は好きですか？」結果

英語に対して否定的な回答が予想した通り多かった。27 年度にも同じ質問をして、英語に対する学生の態度と英語力を調べてみたい。

3. 託間キャンパスでの英語教育

3.1 取り組み

託間キャンパスではコンピューターを利用した CALL 教育に力を入れている。プレゼンテーションソフトを利用した英文法授業やインターネット上で無料利用できる英語教育サイトを利用するなど CALL 教室を有効に活用している。一般教室でも TOEIC 問題集の答え合わせで全員に一斉に解答させ、スクリーンに何人の学生がどの答えを選んでいるかがすぐに把握でき、学生の理解度にあわせて教員が適切な解説ができるような授業が行われている。

教師ができるだけ英語を使い、学生にも英語を使う機会を増やすように音読やシャドウイングなどを中心に、様々な活動を行なう授業が実践されている。ペアやグループによる協働学習を多く取り入れ、英語力だ

けでなく、コミュニケーション能力の向上にも取り組んでいる。

英文法を習う事で、英会話も上達するということを体感させるための「ものづくり」を利用した英会話授業が行なわれている。これは組立て作業をするときには日本語を禁止し、組立マニュアルの指示や質問等をすべて英語で行うように実施されている。

放課後 1 時間程度で、英語母国語話者の講師を囲んで英会話を楽しむ「英語サロン」が平成 23 年度より実施されている。希望者が自由に参加でき、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的としている。

国際交流では学术交流協定を結んでいるニュージーランドの Polytechnic Institute of Technology (CPIT) に夏休みを利用して、ほぼ 1 ヶ月のホームステイをしながら語学学校での学習プログラムを実施している。このプログラムに参加して学生は英語力だけではなく、多文化理解も深め、12 月に四国文化祭で行われるスピーチコンテストでこの体験を発表し、人間としての成長も示してくれた。

5 カ国・地域の合計 6 つの学术交流協定を組んだ教育機関と学生派遣では、国際シンポジウムでプレゼンテーションをするなど英語を実際に使う機会になっている。また地元地域の国際交流協会と協力して、海外からの訪問団を受け入れ交流を行っている (Mori & Johnston, 2013)。

多読に関しては、2 年生の授業で週一時間（45 分）の多読授業を実施している。現在の 4 年生が 2 年生の時に実施が始められた。現在の 3 年生が 2 年生の時には実施はできなかったが、現在の 2 年生には実施されている。託間キャンパスの図書館にはすでに 3400 冊ほどの多読教科書がある。

多読教科書の主なシリーズは、下に示した通りである。各シリーズのスターターレベルや Level 1, 2 程度の難易度の低いものを中心に揃えており、これらの図書を授業に活用するため、『英語多読記録帳』と呼ぶ冊子を作成、配布している。授業では多読記録帳に記入し、自己申告ではあるが読了冊数と読んだ本に関するレポートを提出させ、10~20%の範囲で成績に反映させている (Mori & Johnston, 2013)。

Oxford Reading Tree (ORT), Longman Literacy Land (LLL), Step into Reading (SIR), I Can Read Books (ICR), All Aboard Reading (AAR), Puffin Easy-to-Read (PER), Scholastic Readers (SCR), Penguin Readers (PGR), Penguin Young Readers (PYR), Oxford Bookworms Library (OBW), Oxford Fact Files (OFF), Oxford Dominoes (ODM),

Cambridge English Readers (CER), Macmillan Readers (MMR), Foundations Reading Library (FRL), 洋販ラダー (YHL)

英語多読記録帳 No. ()

1. 分かるほど読む	2. 辞書は使わない	3. つまらなければ、その本をやめて他の本を読む (難しく読む)	4. 読む本	5. 読む日	6. 読む時間	7. 読む場所	8. 読む理由
21	2013/5/26	The Pet Shop	ORT	0.1	36	786	おもしろい
22	5/27	What a Mess!	ORT	0.1	29	1010	動物: mess, トランプ: happy
23	5/28	Fancy Dress	ORT	0.1	25	1035	衣装: 友に送っている
24	5/29	Can you See Me?	ORT	0.1	37	1099	ゲーム: teddy bear
25	5/31	Hide and Seek	ORT	0.1	35	1101	隠れんぼ: hide and seek
26	6/1	The Sandcastle	ORT	0.1	58	1167	ジャケツ: bucket
27	6/2	Hook a Duck	ORT	0.1	58	1225	ゲーム: 犬: 犬のくわい: 犬のくわい
28	6/3	Shopping	ORT	0.1	32	1257	買い物: 犬: 犬のくわい: 犬のくわい
29	6/4	Go On, Mum!	ORT	0.1	47	1301	道の状況: game
30	6/5	Look at Me	ORT	0.1	33	1334	犬のくわい: 犬のくわい
31	6/6	Ride and Bikes	ORT	0.1	33	1334	犬のくわい: 犬のくわい
32	6/7	Fluffy's Book	ORT	0.1	29	1422	犬のくわい: 犬のくわい
33	6/8	Go Away, Fluffy!	ORT	0.1	29	1453	犬のくわい: 犬のくわい
34	6/9	See Me Shop	ORT	0.1	42	1492	犬のくわい: 犬のくわい
35	6/10	What Days Live	ORT	0.1	34	1523	犬のくわい: 犬のくわい
36	6/11	At the Park	ORT	0.1	37	1566	犬のくわい: 犬のくわい
37	6/12	Go Away, Cat	ORT	0.1	33	1599	犬のくわい: 犬のくわい
38	6/13	Look After Me	ORT	0.1	36	1635	犬のくわい: 犬のくわい
39	6/14	Top Dog	ORT	0.1	42	1677	犬のくわい: 犬のくわい
40	6/15	Fish!	ORT	0.1	22	1699	犬のくわい: 犬のくわい

図 1. 多読記録帳の一部抜粋

3.2 取り組みの効果

詫間キャンパスでの様々な英語教育の取り組みの効果は、ほんのわずかではあるが現れ始めているようである。2013年ではTOEIC、ACE BACE テストなどの外部試験結果に効果は現れていなかった (Mori & Johnston, 2013) が、2015年度に実施したGTECの結果では、1年生、2年生では4技能全体の合計平均が前年度の同学年のスコアと比べると以下のように伸びた。

1年 BASIC 合計平均

過年度 H26 2年生が1年生のとき	355.4	10 高専中 7 位
本年度 1年生 11月	388.1	10 高専中 4 位

2年 BASIC 合計平均

過年度 H26 3年生が2年生のとき	371.5	10 高専中 9 位
本年度 2年生 11月	432.0	10 高専中 4 位

4. 多読と多読授業の有効性

4.1 多読とは

多読の英語力向上の効果が最近さらに大きく注目されている。多読とは、大量の英語を概要を理解しながら読むことであり、多くの比較的やさしい英語の本を辞書なしの直読直解でどんどん読むことでインプットを大きく増やすことができる (Takase, 2014, Isaji, 2010)。全員で同じ本を読むのではなく、学生各自が読みたい、辞書無しでも読めると思う英語で書かれた本を選び、楽しく自分のペースで大量に読んでいくものである (Hanamoto, 2014)。

3.2 多読の効果

多読の効果については多くの先行研究がある。英語

多読の実践はリーディングとリスニング力の向上だけでなく、スピーキングとライティングに対しても効果があることが確認されている (Takahashi, 2012)。

多読の効果についてはさらに多くの先行研究がある。リーディング力向上はもちろん、英語力全般の向上、英語に対する自信と動機付け、文法力向上、外部テストにおける英語力向上 (西澤, 2015) などに加え、語彙力、読みの流暢さ向上、ライティング力、スペリング力、読書習慣力向上などその効果は大きい (Takase, 2014)。

大学生を対象に行なった多読効果の研究では英語の苦手意識の払拭、語学学習の意欲向上、語学基礎力強化、語学運用能力向上、異文化理解、集中力持続時間向上、Accuracy の向上に加え、教師の英語力向上の効果まで証明された。これは多読が基本的な語彙・文法事項が盛り込まれた平易な文章を大量にインプットさせることで input を intake に変えるからである。語彙やフレーズの認識、統語解析が自動化促進されることで学習したものが定着し、語学の基礎力が強化されるのである (Takase, 2014)。

高校生を対象にした研究 (Isaji, 2010) では10分間の多読でも効果があることが証明されている。1週間に1回10分間の多読を11回実践した結果、高校生の英文読解力が向上したことが示された。この実践では生徒は無理なく読み進めることができる教材を選び、1回の実践で約800語以上読んだと考えられる。1分間に80語程度以上読むことができるを目安とすると、これは高校の教科書数ページ分に相当する量で、1時間に1ページ進まないことが多い文法訳式授業では不可能なインプットの量である。

4.3 高専での多読実践

多読は2000年代に国内の様々な教育機関で実践されるようになり、高専では豊田高専電気・電子工学科が2002年に導入し、めざましい成果を上げている。徳山高専では2010年度から導入し、大きな効果を上げている (Takahashi, 2013)。

徳山高専では50分授業を週2コマ行うリーディングの科目で多読授業を実施している。2010年度前期は3年生で、後期からは1年生にも、2011年度には低学年 (1年生～3年生) の全クラスで多読授業を開始した。多読は学生の学習態度だけでなく、英語力にも好ましい効果をもたらした。

導入前には徳山高専では入学後に英語力が伸び悩み、英語力の低迷は英語学習に対する動機の低下と連動していることが確認されていた。導入後には受動的・寝

まくりであった態度が、能動的・ほとんど寝ない、眠くても何とか頑張るようになった (Kunishige, 2015)。多読授業を全面導入した2011年には成績にも現れるようになった。外部試験のACEテストで学年平均スコアが高校標準スコアを上回るようになったのである。ACEテスト (Assessment of Communicative English) とはリスニング、語彙・文法、リーディングの3つのセクションから構成された英語運用能力評価協会が開発した日本の英語学習者向けの共通試験である。中学既習事項からセンター試験レベルまでの問題が出題され、満点は900点となっている。多読を実施している学年では前年度よりスコアを伸ばす状態になっている (Takahashi, 2013)。

5. 多読授業成功の条件

5.1 読書量と期間

多読授業でめざましい成果を上げている豊田高専からは多読授業を成功させるための多くの条件を学ぶことができる。Nishizawa (2015)によると、多読で成果を上げるには一定の読書量が欠かせないという。英語を苦手としている高専生では、調査した2003年度の場合、1年生から3年間でTOEIC平均400点に達するには、通常の英語授業に加えて、のべ90万語程度の読書量が必要であった。多読授業は3年間5単位 (1単位: 週45分30週) であり、図書館での課外読書を推奨している。

4年間以降、卒業までの5年間で過半数が100万語を読破し、TOEIC平均も450点以上になり、専攻科を含めて7年間継続した学生では、ほぼ全員が100万語以上を読破するようになり、TOEIC平均は550点以上に伸びている。

学習者の過半数が100万語を読破するには長期継続が重要である。豊田高専のプログラムではおよそ5年以上の継続授業が必要であった。大学生を対象にした研究 (Takase, 2014) では多読授業成功クラスの特徴として3年から5年の長期間、15分~45分の定期的な授業内多読時間確保、年間の総多読時間が多いことが必要であるとしている。

5.2 英文のレベル

英文レベルの選択を間違えることが多読の多くの失敗となる。欧州人向けのOBW1 (Oxford Bookworms Stage 1) はTOEIC400~550点の学生でないと楽しんで読むことは難しく、大手書店の洋書売場の図書推薦で使われるTOEIC得点表示にも注意が必要である。一文ずつ和訳して読むことではなく、翻訳しないでさらさら読

めるやさしい英文を読むようにすることが大切である (Nishizawa, 2014)。

5.3 教員の役割

教員の役割は大きい。学生のやる気を起こさせるには何が常にか常に考え、授業を改善していく必要がある (Mizuno, 2014)。教員の適切な指導が多読を失敗させない重要なものとなってくる (Takase, 2014)。教員には学習者を読む気にさせ、読み続けさせる必要がある。そのためにはまず教員自らが多読を実施し図書を熟知したうえで、学習者にあった正しい図書を紹介し、導けるようにすることが重要である。

日本人学習者が多読を始めるにあたって英文図書に入り込めない要因に英文和訳の影響がある。和訳すれば理解できるレベルの英文を適切と誤解し、読もうとする傾向がある。この読み方では翻訳と理解を同時に行い、理解より翻訳に集中してしまうため短時間で疲れてしまい、物語の内容を楽しむ余裕がない。教員が図書の内容を理解してどこが面白く何が好きなどの物語についての意見を語り、説得する力が必要である。新しい作品や、やさしくて面白い本を大量に揃え、評判の良い定番の図書を広く収集し、学生が多読を続ける環境を整え、本の楽しみを学生と共有することが重要である (Nishizawa, 2014)。

5.4 朗読CDの活用

多読を成功させるには音声も一緒にインプットすることが有益である (Takase, 2014)。多読の初期 (読書量10万~50万語) には、朗読CDを用いた朗読を聴きながらテキストを読む聴き読み、さらに朗読に合わせて音読するシンクロリーディングが有効である。聴き読みでは読書速度が朗読のペースであっても内容の理解はテキストからであり、朗読音声から内容を聞き取る必要はない。聴き読みの最大の目的は和訳防止である。読書量が100万語近くなれば音声なしのリーディングとテキストなしで聞いて理解できるリスニングの組み合わせに移行するように指導することが有益である (Nishizawa, 2014)。

6. 今後の展望

詫間キャンパスでは英語教育向上に向けて様々の試みを行ってきている。今後も学生の英語苦手意識を減らし、英語力向上に向けてできるだけことはやっていきたい。具体的に今後の取り組みについて述べてみたい。

6.1 平成27年度からの取り組み

2年生で週1時間実施している多読だが、27年度には筆者が担当する3年生にも週1時間実施する予定である。28年度には1年生でも実施したいと考えている。27年度の5年生は2年次に多読授業を経験している。1時間の実施がむずかしい場合は可能であれば10分間でも多読を取り入れてみたい。多読活動をより有効にするためにそのあとには関連したoutput活動などを入れ、より効果的なものになりたいと考えている。

6.2 指導法

日本人は中学から高校まで6年間英語を勉強しているのに英語が使えないとよく聞く。これはインプットが少なすぎるからである。英語を使える(アウトプットする)ようにするには十分なインプットが必要である。日本の英語教育は入試を目的とした文法と訳読授業に偏りすぎており、インプットが少なすぎるのである(Takase, 2015)。

英語を読む方法には精読と多読の2種類がある。精読(Intensive Reading)は正確さ(accuracy)に重点を置き、テキストの100%理解を目的とするため、辞書を使って知らない語彙を調べ文法で文を分析し、日本語訳中心で読む。一方、多読(Extensive Reading)は流暢さ(fluidity)に重点を置き、母語を読むように比較的速いスピードで全体の内容理解を進める。言語習得にはこの流暢さが不可欠な要素となり、読み、聞く、話す、書くの言語を使用するのに必要な4技能のどの技能を習得するにも不可欠なものである。大量に読んで大量に聴くインプットが必要である(Takase, 2015)。

英語教員によって指導法は好みがあり、簡単に変えることは難しいかもしれないが、訳読一辺倒の授業は考えたほうがよいといえる。京都外国語大学の鈴木教授の開発したラウンド制によるリーディング授業などは概要理解と音声に重点を置いたもので効果がある。これに多読を加えて実践すればおおきな効果が期待できるものと思う。

7. まとめ

英語苦手意識改善、英語力向上に多読は非常に有効な指導法だということが理解できた。今後は多読を取り入れ、効果がでる条件を整えていくことが重要である。効果的と考えられるものはできるだけ実践していきたい。準備もまだ十分ではないが、できる範囲から進めていきたいと思う。

まず多読を3年間継続して実施するようにしたい。

音声も導入できるようにしていきたい。筆者も多読を体験し、学生と多読図書について語り合いたい。平成28年度が終了するときには多読授業を3年間経験した学生が生まれ、今より好ましい結果がでるようにしたい。豊田高専、徳山高専に続き、香川高専の学生にも英語苦手意識を失くし、英語力を向上してほしい。

英語が使えるかどうかで学生の未来が変わる。世界中の人々とコミュニケーションを楽しみ、対等に議論し、日本を元気にし、元気になった日本から世界に貢献する高専生を作りたい。多くの香川高専生が優秀なグローバル人材として世界で堂々と活躍できるように応援したい。

参考文献

- 伊佐地 恒久(2010). 日本人高校生英語学習者に対する「10分間多読」の効果—読解力と読解ストラテジーの認識について—英語授業研究会紀要. *Journal of Teaching English*, 第19号, pp.4-15.
- 泉恵美子・加賀田哲也・松下信之(2014). 「スローラーナーの英語指導をどうするか?」, 関西英語教育学会(KELES)2014年度(第19回)研究大会企画ワークショップ資料.
- 花元宏城(2014). 「英語I・II・III・IV 楽しく読む Enjoy Reading」. 東京電機大学理工学部英語教材資料.
- 国重 徹(2015). 「Before and After: 多読多聴の導入と実践」. 関西多読新人セミナー発表資料.
- 水野知津子.(2014). 英語教師に求められるもの—外国語学習法略の動機付け観点からの考察—What English language teachers should understand and acquire to motivate their students to become autonomous successful language learners, 香川高等専門学校紀要 第5号 pp.89-98.
- Mizuno, C. (2014). A Trial: How 'Collaborative Learning' Helps KOSEN Students Become More Interested in English. The 19th Pan-Pacific Applied Linguistics Conference at Waseda University.
- 森 和憲 ジャンストン・ロバート.(2013). 香川高等専門学校詫間キャンパスにおける英語教育の現状と課題 Developments in the English teaching methods at Kagawa National College of Technology Takuma Campus, 香川高等専門学校紀要第3号 pp.101-108.
- 西澤一.(2015). 「多読プログラムの成否要因と実践上の工夫」. 関西多読新人セミナー発表資料.

- 大槻 きょう子・高瀬 敦子. (2012). 多読用図書教材が英語習得に及ぼす影響—L1 児童用英語絵本と中学校英語教科書との違い—. 関西英語教育学会(KELES)英語教育研究. *Studies in English Language Teaching*. No.35. pp.63-78.
- 高橋 愛 (2012). 英語多読の実践が英語運用能力の向上にもたらす具体的効果—「英検 Can-do リスト」を通して—. 第 24 回「英検」研究助成報告. pp.138-144.
- 高橋 愛 (2013). 「低学年における英語多読授業の実践とその効果」.平成 25 年度中国地区高専教員研究集会資料.
- 高瀬 敦子 (2014). 「早めの多読・多聴で大きな効果」. 英語授業研究会関西支部・230 回例会発表資料.
- 高瀬 敦子 (2015). What is Extensive Reading? Needs of ER, ER Materials, Effective Ways to Succeed ER (多読の必要性・多読図書・効果的多読方法). 関西多読セミナー発表資料.
- 竹内 理(2010). 『より良い外国語学習法を求めて』東京：松柏社
- Uguisukyuu. (2014). 学年別 TOEIC 平均スコア http://uguisu.skr.jp/toEIC/school_score.html, retrieved on March 5, 2014.